

世界のGAP先進地スペイン研修ツアー vol.3

2019年11月17日-11月25日

東京2020後のGAP戦略を考える 日本農業再興のヒントがいっぱい！

スペイン南東部のアルメリアは、ヨーロッパ最大の夏野菜生産基地で、GAP認証割合100%の先進地です。日本生産者GAP協会が2004年から親交を深めてきたアルメリアの農業関係者を訪ね、稀にみる地域農業の発展を遂げた農業クラスターの実態、特に農協による生産者指導と農産物販売のポイントを探ります。

地域農業を支える行政機関や大学の支援、地域経済の柱である農家と農協や農業法人などの生産・出荷・販売の現場を視察し、それぞれのキーパーソンと意見交換します。また、生物学的制御とマーケティングチャネルの改善、それらを可能にした小規模農家の協同化に学び、日本農業の再興を考えるGAP研修ツアーです。

- ・スペインは、国際規格のGAP認証農家の数が世界で一番多く、農協がリードする園芸産地です
- ・上位（持続可能な農業）のGAPで差別化し、農協の農産物輸出額は大幅に増えています
- ・エルエヒド市は、行政支援の農業クラスターで、地域人口が大幅に増えている農業振興の地域です

このツアーで、GAPは難しいと思っている日本人の誤解を解きます
このツアーで、GAPコントロールが市場支配力を持つことを学びます
このツアーで、GAPが地域農業振興の切札であることを確認します

主なツアーポイント

1. GAP認証農家数が世界一のアルメリア農業の現場を視察

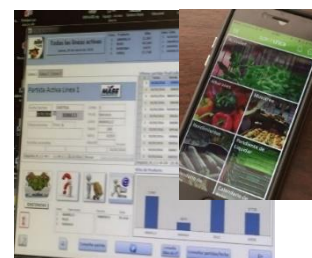
- ・農業ビジネスの要である農協や農業法人を訪ね「生産技術とGAPの総合教育」と「圃場と選果場の統合的一貫管理」について視察します。
- ・「農産物バリューチェーン」について、生産段階の資源（農家・農地・作物・施設・認証取得）情報と、販売段階の資源（商品品質・選果・運送・販売先）報を統合管理する「農業ERP」システムを視察します。



アルメリアのビニルハウス群

2. 攻めの農業をリードする政策の実態とそれに応える農家・農協を視察

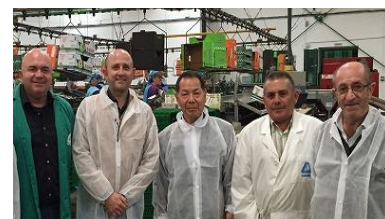
- ・農産物輸出でビジネスを拡大する農協と、それらを支える行政エルエヒド市役所の農業・環境部と情報交換を行います。
- ・先進的な生産技術（IPM、オーガニック）で持続可能な農業に取り組み、高い利益を上げる生産組織を訪問して、農業経営のポイントを学びます。
- ・農産物輸出事業、地方市場や産地卸売業、スーパーなどを視察します。



農協のERPシステムと生産者の端末

3. 83の農協を束ねアルメリアの農産物の70%を販売する連合会を視察

- ・COEXPHALは、アルメリア青果物の生産者と消費者を結びつける協会です。ビジネス成功のために生産技術の革新と生物学的病害虫防除を実践。労働者福祉を優先し、農場認証で環境に優しい農業生産方法をリードしています。
- ・協会翼下の農協は、大量販売（低価格）から消費者側に移行、スーパーマーケットチェーンへの直接販売を可能にし、その付加価値はアルメリアの産地に残留して農協の組合員に再分配されます。



躍進するカンポソル農協の選果場と役員

4. 大学と行政の共同による持続可能な農業の研究開発と人材育成を視察

- ・生産者の価値を付加するための重要な行動は、生産過程で農薬の使用を減らす生物学的防除と総合作物生産の実行です。検査機関の運営、営農指導員の人材育成で持続可能な農業を支援しています。

研修ツアー日程

月 日	訪 問 日 程	泊
11月17日(日)	成田空港 (12:20) →マドリッド空港 (18:35) マドリッド空港 (20:40) →アルメリア空港 (21:50)	アルメリア
11月18日(月)	UNICA (農協販売連合)、 Hispatec (農業 ICT)	アルメリア
11月19日(火)	アルメリア大学農学部、 GlobalGAP 副理事長 (ISAM)	アルメリア
11月20日(水)	Coexphal (全農協マーケティング協会)、 Biosabor (オーガニック農場)	アルメリア
11月21日(木)	Cabasc (農協)、 Camposol (農協)、 El Ejido 市役所、 CUAM (サンプルラボ)	エルエヒド
11月22日(金)	Mabe (輸出中心生産組合)、 Agroponiente (セリ市場)、 Projecta (認証指導)	エルエヒド
11月23日(土)	Granada (調整中)	エルエヒド
11月24日(日)	アルメリア空港 (10:50) →マドリッド空港 (12:05) マドリッド空港 (13:00) →	機内
11月25日(月)	→成田空港 (10:45)	

※行程、訪問先は変更となる場合がございますので、予めご了承ください。

1. 期 間：2019年11月17日(日)～25日(月)

2. 対象者：JA・行政のGAP担当者, その他(定員20名)
※申込は先着順で受付します。
最低催行人数は15名の予定です。

3. 参加費：(会員)48万円、(非会員)50万円
※参加費の最終確定は参加人数確定後となります。
8月中旬に連絡致します。
※取消料は9月13日以降発生します。
詳細は別表のとおり

4. 申込方法

(1) **所定の様式でEメール又はFAXにて送信して下さい**

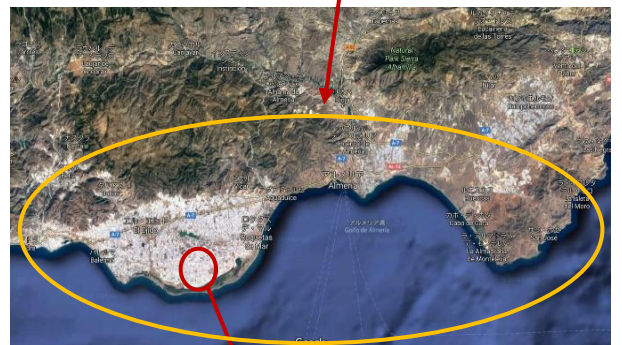
FAX：029-856-0024

Eメール：mj@fagap.or.jp

(2) 期限：2019年8月29日(木)

5. その他

- (1) 成田空港から事務局員が同行し、現地では専門のスペイン語通訳が同行します。
- (2) 現地での詳細なツアー日程は8月中旬に連絡いたします。
- (3) このツアーに関するお問合せ先は下記にお願いします。
(一社) 日本生産者GAP協会 (担当：田上隆一)
TEL：029-861-4900 rtagami@agic.ne.jp



飛行機から見た温室部

参加条件

- 食 事／朝7回、昼5回、夕6回（機内食を除く）
- 利用航空会社／イベリア航空
- 一人部屋追加費用／概算5万円（7泊）
- ビジネスクラス追加費用／個別問い合わせ

参加費用に含まれるもの

- 日程に表示される往復の航空運賃(エコノミークラス)
- 日程に表示される借上げバス等の交通費
- 事務局同行費用、現地案内と通訳料
- 日程に表示される食費(アルコール類含まず)
- 宿泊費：ホテル(2名1室)

参加費用に含まれないもの

- 渡航手続諸経費:パスポート代理申請手数料
- アルコール類、上記以外の食事費用
- 個人的費用(交通費・電話代など)
- 自由行動中の一切の費用
- 羽田空港までの往復交通費用
- 手荷物超過料金
- 海外旅行傷害保険料

取消規定 おひとり様当たり

取消日 (契約解除日)	取消料・企画料
9月13日(金) から	
10月1日(火) まで	16,500円
10月2日(水) から	
10月11日(金) まで	22,000円
10月12日(土) から	
11月15日(金) まで	78,000円
11月16日(土) 以降	参加費用の100%

「スペインには、日本でのGAP推進のヒントがいっぱい！」

15年間見続けてきたスペイン・アルメリア（EU最大の夏野菜生産基地）のGAP戦略

農協組合員のGLOBALG.A.P.認証取得率は100%

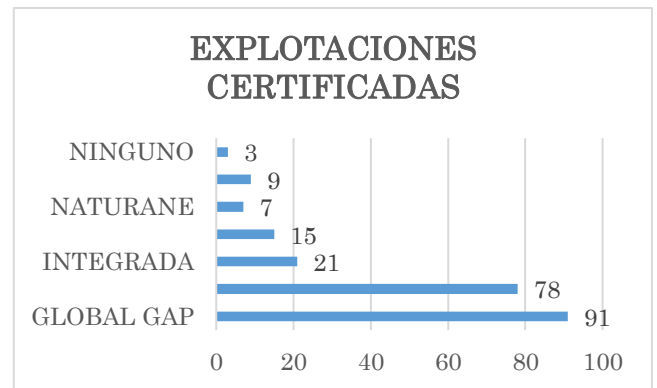
スペインは、多くの農産物を欧州各国に輸出しており、GLOBALG.A.P.認証を取得している農家が世界一多い国です。中でもアンダルシア州のアルメリア県には、約35,000haの温室（ビニルハウス）があり、トマト、キュウリ、ナス、ズッキーニ、ピーマン、スイカ、メロンなどが農協（アグロコープ）を中心に大量に栽培されており、全ての組合員がGLOBALG.A.P.認証を取得しています。（正確には、農協がGAP認証オプション2を取得し、組合員農家を指導管理（クオリティコントロール）しているということです）

農業者に対する教育

農家の平均的な耕作面積はハウス栽培 1.5ha 程度。農協の組合員である農業者は、テクニコ（農業技術員）から栽培などの技術指導を受けるとともに農場運営の管理指導を受け、段階的にGAP管理レベルを向上させています。教育結果の試験が行われ合格者には免許証が交付されます。肥料・農薬を購入する際にこの免許証が必要となります。

行政の支援と農協選果場の認証

多くの農産物は買手側の要求水準の高いEU域内に輸出されているため、持続可能性や食品安全に対する科学的検証が重要になっており、そのために市役所の農業部門が、植物体の検査や土壌の検査及び残留農薬検査を安価でサービスをしています。農協やその他の出荷組織では、BRCやIFSという食品安全管理の認証およびApplusというトレーサビリティの認証を取得しています。



取得している農場認証と全農家に占める割合、エレヒド市



アグロポニエンテ農協の取得認証

IPM (総合的病害虫管理) からオーガニックへ

2010年には、天敵栽培に取り組む高知県の普及指導員や農業試験場の研究者らと、主に IPM の調査を行いました。アルメリアでは天敵昆虫を使った生物学的害虫管理で先進的な取り組みをしており、2004年に訪問した際には沢山あった化学合成農薬が、農業者の農薬保管庫にはほとんどなかったことが大変印象的でした。その結果、現在はオーガニック農産物の生産量が増えイギリスやドイツ、フランス、スイスなどに高値で販売されています。

農業者は GLOBALG.A.P.の他にも農場認証を取得している

「GLOBALG.A.P.は農業者のリミット (最低限やるべきこと)」なので、国際的な競争では、より高度な認証を求める需要が増えています。そのため、比較的遅れていると言われている農協も含めて、全ての生産組織が、GLOBALG.A.P.の他に、Natures Choice (ネイチャーズ・チョイス、イギリス最大のチェーンストアである“テスコ”のストア認証)、LEAF Marque (イギリスのオーガニック認証)、Biosuisse (スイスのオーガニック認証で北欧への輸出に必要) などに取り組んでいます。また、グローバル・マーケットに積極的に販売するためには、更に、GRASP (GLOBALG.A.P.による農業生産企業の社会的責任の規準)、BSCI (サプライチェーンの公正な労働条件の認証) などへの取り組みも多くなっています。

広がるオーガニックマーケット

2008年まで小さな農協で100%のオーガニックに挑戦していたフランシスコ・ベルモンテさんは、兄弟4家族で、180haの温室で耕作していましたが、今では350haで農作業員約400人、選果場作業員約200人の大農場「Bio Sabor, ビオサボル (オーガニック・テイストの意)」の経営を始めました。選果場はドーム型でとても清潔です。認証はオーガニック認証で、ドイツ、ノルウェー、スイス、フィンランド、その他の国に直接輸出しています。

アルメリアの選果場では日本の「改善」を実行

農協は、いわゆる単協 (組織レベル1) が、組合間協同で連合体 (組織レベル2) を構成しています。農協連合体で、マーケティング、販売促進、販売業務を統一して農産物ビジネスを展開しています。また、それぞれの単協で所有していた選果場を、専門化・合理化し、連合体全体のコストの削減を図っています。

これらの選果場の GAP の目標は「改善」です。選果場の掲示板上に漢字で『改善』と記されています。ここから私たちが学ぶものは、GAP の手法や管理の手順ではなく、産業として農業を実践する農業者と事務局の「GAP 方針」や「GAP 姿勢」なのかもしれません。

GAP 推進と農業 ICT について

日本では、農業者の GAP 普及で阻害要因になっている農場管理計画や記録事務の負担を軽減するために ICT 活用を推進するという考え方がありますが、アルメリア農業での ICT 導入は、日本とは普及の因果関係が反対です。農協を中心に標準化された組織的農業戦略 (農産物の生産と販売) をさらに推進するための「ICT の導入」なのです。つまり、GAP が定着しているから ICT を導入するということです。

アルメリアの農業では、農場管理の現場 (農業経営体) を束ねる農協 (組織経営体) は、名実ともに農業者を組織 (農協) の一員 (経営資源) と考えて管理します。その組織管理は ERP (Enterprise Resources Planning: 農業経営の資源要素「ヒト・モノ・カネ・情報」) を適切に分配し有効活用する情報戦略) で、農協の基幹系情報システムを利用しています。マーケット情報から、販売先情報、選果場のリアルタイム情報、農場の生産情報を一元管理することが目的です。



高知県技術者との研究交流



無許可立入禁止、生物学的管理



一般的なフラットな屋根のハウス



衛生管理の行き届いた選果場



”改善”を合言葉に“5S”に取り組む



一元管理される圃場情報と選果情報

